

★ 高等部 産業現場等における実習と進路学習 ★

高等部では、11、12月に1年生と2年生が実習を行いました。実習で自身の強みや良さを再確認し、また進路選択に向けて新たに課題や目標を考える機会となりました。

進路だよりでは、今回実習後の評価表で実習先事業所からいただいたアドバイスを御紹介いたします。

【健康管理・体調管理】

- ・ **体調管理**が大事です。
- ・ **身体機能を維持**することで、安心して通えると思います。
- ・ 作業は繰り返すことでできるようになると思いますが、**基本的な体力の向上**が必要だと思います。
- ・ **体調が良好**であることが、仕事のパフォーマンスに直結する最も基本的な要素です。



【生活リズム】

- ・ 遅刻・早退・欠勤なく、**毎日出勤**しており、**身だしなみ**についても職場環境に相応しかったです。
- ・ 学校とは違う環境や普段と違う生活リズムでも、異年齢の方々とともに過ごすことができていました。

【コミュニケーション・気持ちの表出】

- ・ 慣れない環境でも周りの声や動きに対して笑顔も見られ声を出していました。
- ・ 保護者や先生とは違う支援者と行ってもリラックスして過ごせた様子で良かったです。
- ・ 職員の声掛けに顔を振ったり、上肢を動かしたりし、**自己の気持ちを表現**していました。
- ・ マンツーマンでの関わりから一人で課題に取り組めるような場面を増やしていただけると、この先の進路について幅と選択肢が広がるでしょう。
- ・ **人との関わり、活動、環境の経験**を増やすと良いです。
- ・ にこにこしている姿が印象的で、**誰に対しても挨拶やお礼**を言えるのはとても好感がもてました。

【基本的労働習慣】

- ・ **集中力**を養うともっと正確に業務が行えると思います。
- ・ 気持ちや集中が続くよう、経験を重ねると良いと思います。
- ・ **報告、連絡、相談**の仕方が、とても丁寧で正確でした。
- ・ 分からないことは、すぐに分からないと言ってもらったほうが良いです。



【技能・スキル】

- ・ **作業は正確**に行うことが大切です。まずは仕事を正確に行い、次に効率や作業スピードの向上を目指すと良いと思います。

【その他】

- ・ 卒業後の目標をもつこと、生活介護などの福祉サービスが生活の主となった場合の**御家族を含めた生活のシミュレーション**が大事です。

★ 卒業後に必要とされる力を見据え、御家庭と連携を取りながら日々の教育活動に取り組んでいきたいと思っています。



就労選択支援がはじまりました



令和 7 年 10 月より、これまで B 型事業所を希望していた方のみを対象としていた「就労移行支援事業所」による就労アセスメントが、対象範囲やアセスメント内容を変更し、「就労選択支援事業所」による「就労選択支援」としてスタートしました。

就労選択支援の対象者

就労選択支援の対象者は、障害がある人で、就労移行支援や就労継続支援の利用を検討している人、または現在サービスを利用している人が対象です。高等部卒業後に A 型、B 型事業所の利用を考えている場合は、就労選択支援を利用したアセスメントとケース会議を行う必要があります。

サービスの類型		新たに利用をする意向がある障害者	すでに利用をしており、支給決定の意向がある障害者
就労継続支援 B 型	ダイレクト B 利用のアセスメント対象者（下記以外のもの）	2025 年 10 月から原則利用	希望に応じて利用
	・ 50 歳に達しているもの または障害基礎年金 1 級受給者 ・ 就労経験ありの者（就労経験があるものであって、年齢や体力の面で一般企業に雇用されることが困難になった者）	希望に応じて利用	
就労継続支援 A 型		2027 年 4 月から原則利用	2027 年 4 月から原則利用※標準利用期間を超えて更新を希望する場合
就労移行支援		希望に応じて利用	

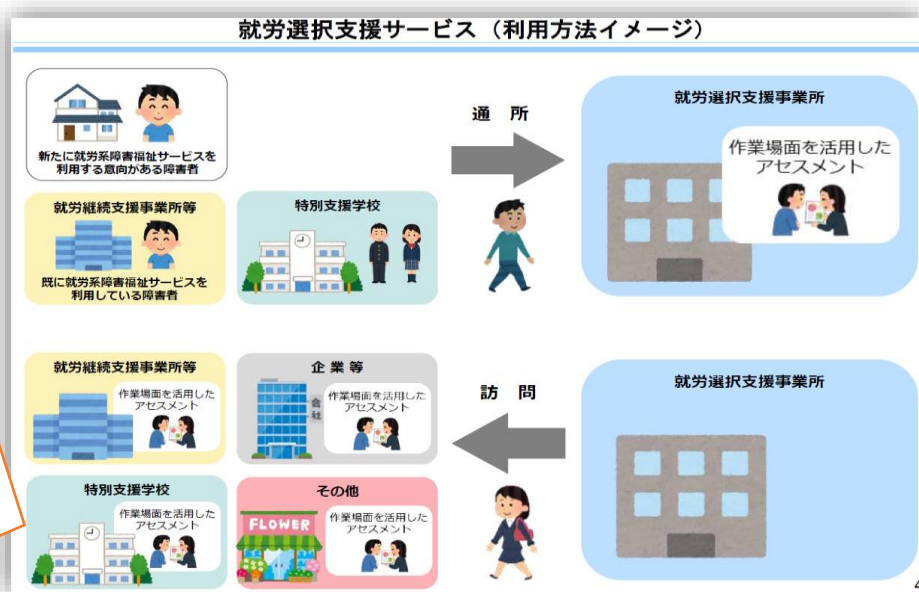


就労選択支援とは？

就労を希望する方が、自分に合った働き方や進路を選ぶように、就労選択支援事業所がアセスメントや他機関と連携したケース会議など本人を中心にを行います。関係機関・学校と連携して情報提供や体験の機会をつくれます。

就労選択支援は、高等部在学中、いつでも利用することができます。

ただし、本校の場合、①車いすでの活動が可能な就労選択支援事業所が少ないこと、②トイレなどの介助が就労選択支援事業所ではできないことを考え合わせ、学校内で行うプレ実習期間を利用することをおすすめします。



本校の利用方法は現在コチラが基本。ほかの方法でも利用は可能